

防犯セミナーへのご質問へのお答え

この度は2023年10月度の弊社Webセミナーにご参加いただきまして、心より御礼申し上げます。

下記のご質問を頂きましたので、心を込めてご回答させて頂きたいと思っております。

アンケートのお答えやご質問、ご意見を頂くことは、まさに私のWebセミナー開催の“原動力そのもの”です。心より感謝いたします。

★Y M様からのご質問

“防災の話ですが、会社で南海トラフなど震災時、湖西から我が家（豊橋牛川）まで歩きか自転車で帰るルートを考え中です。多米峠-トンネルは避け、国道1号から帰ろうと思ってます。

一刻も早く帰ろうと考えてますが、帰宅の判断基準はどう考えるべきですか？”

★回答

まずは、家族との安否確認を動く前にする事です。災害用伝言ダイヤル（171）災害用伝言板（web171）などを実際に使える日がありますから、家族全員それを使い慣れておく事です。体験運用日は下記になります。

★毎月1日,15日 00:00～24:00

★正月三が日（1月1日00:00～1月3日24:00）

★防災週間（8月30日9:00～9月5日17:00）

★防災とボランティア週間（1月15日9:00～1月21日17:00）

伝言録音時間：30秒

伝言保存期間：体験利用期間終了まで

伝言蓄積数：電話番号あたり20伝言

まずは胆力を発揮して動かず、安全（命の安全・職場の安全）が確認出来たら、後は住宅の近隣火災の心配ですから、なるべく家に帰る事は価値ある選択になります。

帰宅ルートは最低でも3通り程度考えておく事が必要です。特に国道1号線は湖西からご自宅までのルートでは津波にやられているエリアが沢山あると思います。帰宅ルートの標高も事前に確認する必要があります。（続く）

また、自宅にいる家族から家族全員の自宅安全と近隣火災等の発生の可能性が全く無い旨の情報が得られれば、帰宅は慌てる必要はないかも知れません。慌てると二次被害に遭う可能性もあり得ます。

歩いて行ける近隣のバイク屋さんや自転車屋さんの場所を事前に確認しておき、地震後一番でお店に駆け込み、その場で現金で激安のバイクや自転車を買求める方法と・・・折り畳み自転車等を通勤の車や会社の机の下とか、どこか邪魔にならない所に置いておくのも一つの方法ですね！念の為にパンク修理方法も事前に習得する必要があります。

また、職場での地震後のBCPやコンティンジェンシープランがあるのなら上役等にも、職場離脱の可能時期等も確認しておく事をお勧めします。「あいつは職場を放棄して逃げた」・・・との後々のそしりを受けない為です。

また、水や薬や非常食など移動に使う可能性のあるものを詰め込んだ防災リュックも通勤用の車に1つ積み込んでおく必要もあります。出来れば自転車で想定される帰宅ルートを1度か2度実際に走ってみるのもお勧めいたします。

★N Y 様からのご質問

"地震などの災害に備えた準備だけでなく、台湾有事が起きた場合の一般人ができる対策はありますでしょうか？2024年1月には総統選挙がありますし、官房長官が沖縄の離島住民の受入先を要請しているニュースを見ると、現実味を帯びてきていると感じます。"

★回答

5年に1度の中国共産党大会が2022年10月16日、共産党トップの習近平（シー・ジンピン）総書記（国家主席）は活動報告で、台湾統一について「必ず実現しなければならないし、実現できる」と語った。5年前の報告より大幅に表現を強めた。党大会では異例の3期目続投。習氏は超長期政権を視野に、台湾統一を事実上の「公約」に掲げた！

権力者は長年そのトップを維持し続けると、権力者は自分自身を自国の歴史に延々と刻まれる偉大な人間とし名を遺す衝動（自己偉人化⇒究極の承認欲求）に間違いなく侵され、その行動をとる。ロシアのプーチンがウクライナに侵攻したのもそれが理由。ロシアのプーチンはレーニン、スターリンを目指している。習近平は毛沢東を目指しているのだろう。

権威主義国のリーダーは自己の目的の為の障害を取り除く為に、世界中に紛争を起こし、アメリカや自由主義国の国力を低下させ、西側諸国のまとまりを妨害し、産業のアキレス腱を中国が握りながら・・・相手が台湾有事などに介入出来ない衰退時期、混乱時期を狙い一気に台湾併合に突進するのだろう。

ありがたい事に豊橋には米軍基地や自衛隊基地も軍事物資工場も無いし、原発も有りませんから直接攻撃される可能性は低いと思いますが・・・鉄道や幹線道路はミサイル攻撃される可能性はあり得ます。有効な対策は大災害時の対策と重なり、紛争は長引く可能性がある・・・自給自足率をどれだけ高めておくかが勝負になると思います。「エッセンシャルワーカー（essential worker）」「必要不可欠な労働者」の価値は上がると思うし、食が一番の重要なファクターとなるでしょう。

そんな確実に台湾併合を公約にしている中国に世界で一番依存をしている日本という国のまさに狂気にもあきれて空いた口が塞がりません。

歴史は繰り返す⇒原理原則・・・過去に人間が起こした事は未来にも確実に起きえるという事です。

★戦争は、1歩踏み出し、止められず・・・熱狂の渦、心消失 日本人は熱狂に思考停止する民族。

以上、ご回答申し上げます。

今回は弊社WEBセミナーにご参加頂きまして心より御礼申し上げます。